



～地域とともにある学校をめざして～

鯨コミ

R4 CS通信No.11 R4.10.3



(コミュニティ・スクール通信) 文責 社会教育推進 DC 藤田昭彦

学校運営協議会委員視察研修・はまなす探検(舞戸小1年)・ミシン学習(西海小6年)

鯨ヶ沢町では、教育を取り巻く環境の変化と課題として、少子化の進行が著しく、今後も児童生徒の減少が予測されていること、現時点で小学校の複式学級が1クラスあり、指導体制の工夫が求められていること等があげられます。

昨年度のCS関係者意見交換会では、小学校の統合や小中一貫教育も視野に入れて考えていかなければいけないという意見がありました。

そこで、今年度は、事業の一つとして、小中一貫三戸学園の視察に出かけることになりました。

視察では、小中一貫教育を実施した成果と課題について説明してもらったり、校舎内外の優れた教育環境を見せてもらったりしました。

三戸町の児童生徒が穏やかに生活している姿は、未来の鯨ヶ沢の学校の姿を描く上で大変参考になりました。



このたび、舞戸小学校1年生が、はまなす公園に探検にでかけました。はまなす公園に到着すると、担任の工藤先生の指示で、砂浜に流れ着いた貝がらや海草、木の実を拾いました。

子どもたちは、はだしになって動き回り、貝がらや海草、木の実をたくさん拾い集めていました。

次は、グループごとに集まって、砂を掘ったり、盛り上げたり、型を取ったりして、サンドアートを作成しました。子どもたちの作成したサンドアートは、「川の町」「川のプール」「ベッド」「海のケーキ」「岩木山」「100年前の島」「お城」等と命名し、みんなで見せ合いました。

今回の探検には、担任の工藤先生、支援員の藤田さんの他に地域学校協働活動推進員の工藤さん、学校支援ボランティアの齋藤さんが応援に駆け付け、子どもたちの活動支援や安全確保にあたりました。



西海小学校(6年)では、元PTAの久保田さんと晴山さんが来校し、ミシンの点検と学習のお手伝いをしました。

最初は、うまくできるか心配なのか、ゆっくりとしたスピードでミシン縫いをしていましたが、慣れてくるとスピードをあげたり、丁度良いところで止めて返し縫いをしたりしていました。

子どもたちに感想を聞いてみると

「わからない時やうまくできない時、久保田さんや晴山さんがそばに来て教えてくれる。」

「今日は、担任の葛西先生とコーディネーターの工藤さん、そして、久保田さんと晴山さん、ミシンの先生が4人もいるので、待っている時間がなくて良い。」と答えていました。

